

マダラカサハラハムシの生態と防除法

[研究のねらい]

- ・マダラカサハラハムシは古くから知られているチャの害虫であるが、被害が軽微なためほとんど研究されてこなかった。しかし、近年、静岡県の一部地域において、軽視できない被害が発生している。
- ・そこで、茶園におけるマダラカサハラハムシの発生生態を解明し、モニタリング方法、防除法を検討する。

[研究の成果]

- ・成虫の発生は、叩き落とし調査、葉層および雨落ち部の茶枝につるした黄色粘着版により把握できる。成虫は8月から出現する(図1・2)。
- ・ふ化幼虫は、ツルグレン調査により発生を把握でき、9月から10月に多い(図1)。成虫は樹冠下の枯葉に産卵していると推定される。個体当たりの産卵数は非常に多い。
- ・9月から10月にふ化した幼虫は、幼虫で越冬する(図2)。8月に羽化した成虫は越冬するが生存率は低く冬期にほとんどが死滅する(図2)。
- ・被害は主に秋芽に多く、まれに成虫で越冬した個体が一番茶芽を食害する(図2)。
- ・マダラカサハラハムシにはコテツフロアブルの適用がある。8月に成虫の発生と被害を確認したら早期に薬剤防除する。次世代抑制のためには、発生確認後、遅くとも1ヶ月以内に薬剤防除する。

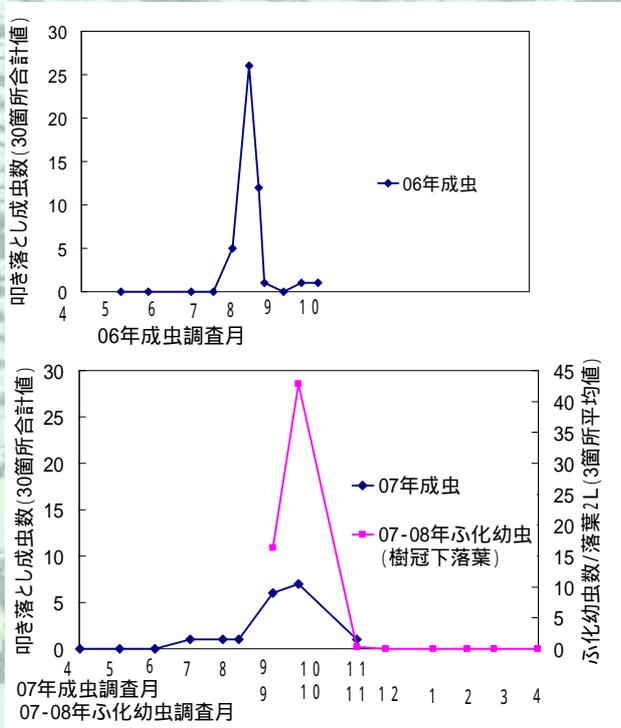


図1 叩き落とし調査により落下した成虫数およびツルグレンにより採集されたふ化幼虫数の推移
注1) 2006年8月24日にクロルフェナピル水和剤を散布。2007年は散布していない。



図2 茶園におけるマダラカサハラハムシの生活史の模式図

問い合わせ先 生産環境(病害虫) 0548-27-2885
代表 0548-27-2880
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp